



こども相談室だより

No. 13

平成30年2月発行

こんにちは。

“こども相談室だより”
第13号を発行します。

今回は“過去の私の物語”と
“子どもの未来につながる言葉”です。

発行元

長野市こども未来部

こども相談室

TEL026-224-7849

過去の私の物語

～ 思いは、経験から生まれる ～

人生における印象的な出来事は、一つの物語として心に留められています。その物語に、人は様々な色付けをして、何度も繰り返し語り、味わいます。うれしかった事、悲しかった事、楽しかった事、寂しかった事のどれもが、人生を豊かに彩るのだと思います。

その中で、それぞれの人が持つ信念や願い、はぐくまれた価値観、考え方の癖が、小さな失敗や違いを大きな問題として捉えてしまうという事があります。例えば、「男の子は元気でなくてはならない」とか、「女の子はお母さんの言う事を良く聞くものだ」のような個人的な経験に基く信念や、「母は、いつも太陽であらねばならない」「父は、威厳があるものだ」「家事も育児も完璧にしたい」というようなひとの願いが、自分の思いとは違う現実を問題と捉えさせるのです。

～ わが子の中に見える私と向き合う ～

人はみな、子ども時代を経て大人になっています。そのため、子どもを育てるということは、子ども時代を再び、再現しているような感覚にとらわれる事があります。子ども時代に経験した出来事、出会った価値観、叶わなかった想いは、大人になったその人の信念や価値観、考え方の癖に影響を与えます。

親であるあなたが、子どもとの関係で問題だと思っている事は、本当に解決を要する問題なのか、見かたを変えれば、もう問題ではないのか、それは、他者に語ることではじめて理解する事ができるのだと思います。身近な方に、あるいは、こども相談室のような他者に話すことで、「今の私と子ども」について、現状の捉えなおしをしてみたいはかがでしょうか。

子どもの未来につながる言葉

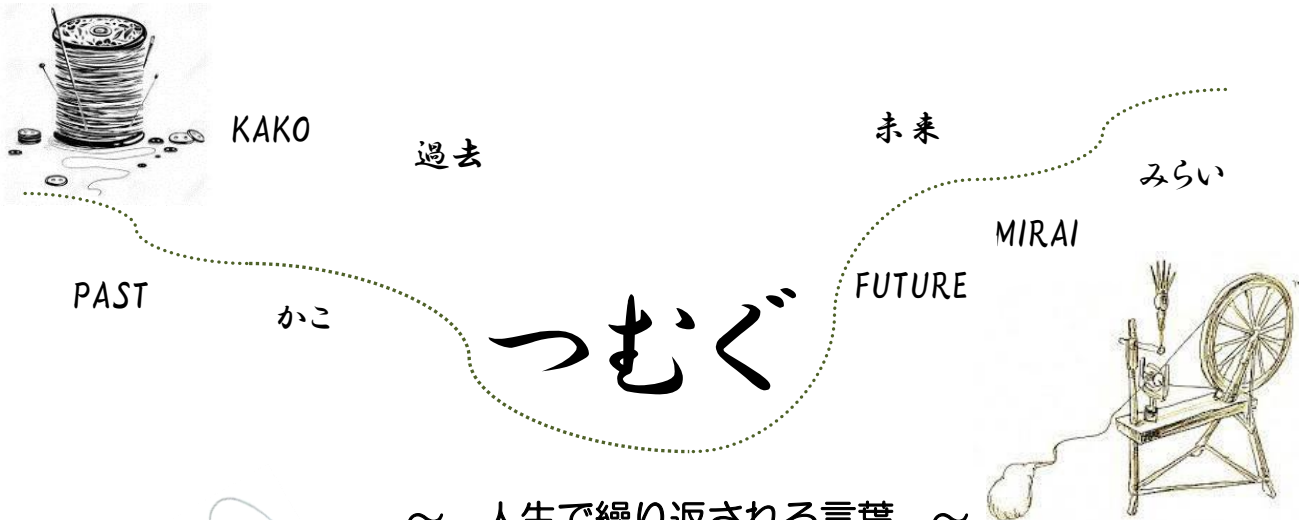


～ 希望を込めて語る ～

これから、自分の人生の物語をつむいでいく子どもには、どのような信念や価値観、願いを持って生きてほしいでしょうか。そこには、十人十色の希望があるでしょう。

親が十人十色であるように、子どももまた十人十色であります。これは、家庭の環境や育て方だけでなく、子どもが持って生まれた気質によっても大きく影響されます。時には、子どもたちに、どう生きてほしいのかという願いを込めて言葉をかけたいものです。

例えば、完璧を求め、失敗を恐れるお子さんには、「失敗は成功のもと」という言葉はいかがでしょうか。ことわざの説明に加えて、まじめできちんとしたいところは長所であり、失敗が怖いと思うことはよく分かりますと受け止めてほしいと思います。失敗を恐れる完璧主義は、「まじめできちんとしたい」ということの裏返しなのです。せっかちなお子さんには、「急いではことを仕損じる」。他者との共生を教えるためには、「情けはひとのためならず」。昔ながらのことわざには、今も変わらぬ生き方の教えがあります。言葉がけのヒントとしてはいかがでしょうか。



～ 人生で繰り返される言葉 ～

筆者は、心配性で新しい事がうまくできるか、強く不安を感じる子どもでした。その不安を言葉にすると、母はいつも「案ずるより産むが易し」と繰り返していました。それは、いつの間にかおまじないのように自分の心の中で繰り返される言葉になりました。

大人から無意識に語られる言葉が、子どもの一生の中で何度も繰り返される人生の指針になることがあります。また、その言葉とイメージが、人格形成の一端を担うのだと思います。自分自身を受け入れる言葉、その歩みを後押しする言葉が、どの子にも語られることを願ってやみません。



